

赤十字七原則

道 平 立 立 仕 一 性
人 公 中 独 奉 単 世 界

ともしび

第 83 号

発行日 令和 6 年 12 月 10 日
発 行 君津市赤十字奉仕団
編 集 君津市赤十字奉仕団
広 報 編 集 委 員
事務局 ☎ 0439 (56) 1183



田主事による「能登半島地震

5月30日貞元コミュニティセンターで開催された「一日赤十字」に参加しました。はじめに災害時の炊き出しとしてハイゼックスのご飯作り、紙で作る食器を2班に分かれて交替で体験しました。続いてレッドクロスボランティアスクール参加者の報告では、ユーモアを交えた分かり易い話で赤十字の基本を改めて認識しました。

秋元分団 斉藤悦子

参加者の感想

赤十字ってなあに？の質問に答える「令和6年度一日赤十字」の研修会が5月30日、貞元コミュニティセンターで開かれ、一般の方と奉仕団員約40名が参加し、災害時に備えて知っておくべき事柄を学んだ。能登半島地震の被災地で救護活動に当たった赤十字千葉県支部・浅田主事の体験談、レッドクロスボランティアスクール参加者・岸幸枝さん（君津分団）が研修報告を行った。なお当日（元君津市職員で赤十字奉仕団の担当をされた）小倉ひろき市議他数人の議員さんも参加された。

令和6年度 一日赤十字
炊き出し（ハイゼックス）、災害時のグッズ作り
能登半島地震救護活動体験談、RCVS参加者報告



の救護活動体験談」で、一月中旬から被災地に医療救護班として派遣された時、大変な状況の中での支援活動をされた様子を画面を見ながらのお話しでした。赤十字の命を救う活動の重要さを強く感じました。徐々に復興はしているものの今でも不便な生活を余儀なくされているとのことでした。

昼食は、実技体験で作ったチラシを利用した紙食器にポリ袋をかぶせ、ハイゼックスのご飯を盛りレトルトカレーをかけました。ご飯も美味し

▲岸幸枝さんの研修報告
▲段ボールで簡易トイレ作製

私は、過去に何度か救急法を学ぶために研修などにも参加してきましたが、学んだことを活用する機会がないため忘れていた内容も多くありました。しかし、今回参加したことで、救急法の手順を思い出すことができました。

救急法講習会に参加して
富津市 中島紀明

事故など不測の事態が起きる確率は常に潜んでいます。万が一が起きてしまった時、冷静



▲小さい子どもを持つパパ・ママに好評

に対処するためにも、定期的な今回のような講習会に参加することで、救急法の知識を記憶に定着させる必要を感じました。今回のように誰でも気軽に受講できる機会が必要であり、参加する機会がない時でも思い出すための冊子があると嬉しいと感じました。また、今回はAEDの使い方、止血法、骨折の際の手当の仕方等を学びましたが、それ以外にも季節や時事に沿った救命法を学ぶ機会があれば参加していきたいです。

今回覚えた内容は自分だけでなく家族や同僚にも伝え、もしもの時の備えにつなげていきたいと思いました。

赤十字救急法講習会
午前11時～12時のための救急法スクール
午後12時～2時のための救急法スクール
（7月7日・生涯学習セ）

「知っているれば安心です」をテーマとする赤十字救急法講習会は7月7日、生涯学習センターで開催された。

（午前の部）子どものための救急法スクールでは、小さい子どもを持つパパ・ママを対象に、☆心肺蘇生法・AEDの使い方、☆喉にものを詰まらせた時の対応、☆傷の手当てなどを講習、親子連れなど約30名が真剣に受講。

（午後の部）大人のための救急法スクールでは、☆心肺蘇生法・AEDの使い方、☆止血法、☆傷の手当てなどを講習、一般14名を含む32名が受講した。

主婦力のレベルアップ
小糸分団 佐藤加奈子

私は、初めて「一日赤十字」に参加しました。特に良かったのは、災害時に役立つグッズ作りで、段ボールで大人が座れる強度のある簡易トイレ

を作ったことです。座面の幅が狭いと太ももが痛くなり、広すぎると便がついてしまうことがある、と説明され大笑い。面白おかしく教えてもらいました。材料は天然水の入っていた段ボール箱で、二つ重ねると頑丈な簡易トイレができました。

我が家では、この技術にヒントを得て早速ヤギの保育小屋を作ってみました。生まれ時は9百㌔でしたが、2ヶ月で7キロ㌔に成長し、夫の作った小屋をすぐに壊してしまいがちでした。そこで簡易トイレの技を参考に頑丈な小屋を作ったので大きくなったヤギに壊されなくなりました。子ヤギも家族も大喜びでした。

赤十字奉仕団員の信条

- 一、すべての人々のしあわせをねがひ、陰の力となつて、人人に奉仕する。
- 一、常に、くふうして、人人のために、よりよい奉仕ができるよう努める。
- 一、身近な奉仕をひろげ、すべての人と、手をつないで、世界の平和につくす。

7月16日、里の家・小櫃会場へ、赤十字千葉県支部の新規採用職員10名が実地研修に来所。当日は小糸・小櫃の来所者（計12名）が参加した。同事業は、平成24年からほぼ毎年行われ、来所者と孫のような職員との交流が続けられている。当日は、清和の鹿野山地区に古くから伝承されている「山頂娘節」（さんちよこぶし）を澤田君子さんの指導で楽しみ、いつも通りの体操や手遊びも行い、また研修

日本赤十字社千葉県支部 新規採用職員10名「里の家」にて実地研修

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、人間の命と健康、尊厳を守る」を具現化する事業として、救急法をはじめとする各種講習の更なる普及・推進を図って、年1回

赤十字救急法フェスタ2024 思いやりを紡ぐ包帯法に挑戦 小糸・秋元 チームが優秀賞

地域の安心・安全な社会づくりを目指し、日々の生活における事故防止の意識を高めることを目的に「赤十字救急法フェスタ2024」は10月3日、県総合スポーツセンターで開催。君津市から小糸・秋元の2チームが出場、大活躍でした。



▲ 君津市分団代表2チームと指導員

「救急法フェスタ」を開催している。今年のテーマを「思いやりを紡ぐ包帯法」として、三角巾を用いて頭・前腕（腕の吊り）・膝の3部位の手当をする。1チームは、傷病者1名を含む4名で実施。競技時間は15分。患部の覆い、本結び、結び目の位置、末端処理などの仕上がり、また、傷病者への接し方などで競われた。

秋元チームは、ベテランの風格で、小糸チームは新人の明るさでチームワークでそれぞれ「優秀賞」を獲得、お疲れさまでした。また、この様子は朝日新聞にも取り上げられ話題となりました。



◇ 2チームが練習の成果を披露した

生と奉仕団員が協力して昼食の用意と配膳、後片付けも一緒に体験した。午後は、会場を講堂に移して、魚釣りゲーム、リラクゼーションなどでゆったりと時を過ごした。来所者をお見送りした後、奉仕団員との交流会を行った。研修生から「来所者一人ひとりに細かい気配りをしていて、姿に優しさを感じる」と感想をいただき、私達も「奉仕者の高齢化も現実」という悩みを隠さずに披露した。



▲ 来所者と研修生が向き合っ
さんちよこ節を楽しみました。

◇ 研修生が優しく リラクゼーション



里の家だより

場なので、時折保健師さんや栄養士さんのお話を聞くことができます。

▼ お世話になっている 地域交流センターの職員さんへ座布団カバーをプレゼント（小櫃）



▲ フェルトエ 芸でサザン の花のブロー チを作りました（小糸）

里の家小櫃は、来所者が4名とちよびり淋しくなりましたが、会場が広いのでゲームや体操などゆつくり楽しんでいます。ただけです。

12月に入ってすぐに赤字の赤い手帳をいただいた。早速、新しい手帳に今年のスケジュールと来年度の予定も書き込み念のため2冊を携行。表紙は赤・白両面使えるので一年毎に変え便利に使っている。けれども私用の日記帳は情けないが近年は空白が増えつつある。来年こそは真面目に——と思って新年度版を用意しようと思ったら、馴染みの本屋のシャッターがいつの間にか閉まっていた。

あ と が き



君津市民ふれあい祭りは9月28日、日本製鉄（株）東日本製鉄所君津地区で実施され、赤十字奉仕団に非常食（ハイゼックス）400食、炊き出しの要請があった。奉仕団では団員15名を動員、炊飯袋に米約100gとめんつゆを入れてしつかり輪ゴムで縛り炊き出し用大釜に入れます。今回は80食ずつ5回を炊飯。発泡スチロールの箱に入れて蒸らしたものを、製鉄所の工場見学に訪れた方達に



非常用の食べ物として作り方を説明しながら配布した。ふれあい祭りは、各種イベントで賑わい、非常食の配布会場も沢山の笑顔がひろがっていた。

ふれあいまつり2題 ◆ 君津市民ふれあい祭り ◆ 健康と福祉のふれあいまつり

（令和6年9月28日）
（同6年10月19日）

健康と福祉の ふれあいまつり

健康と福祉のふれあいまつりは10月19日、保健福祉センター、生涯学習交流センターを会場に開催された。赤十字奉仕団では、活動紹介（応急手当・おもしろクイズ）と模擬店（フランクフルト販売）、防災ボランティア紹介（災害時に役立つグッズ作り）を行った。

◆ 写真上は、日本製鉄前で来場者に非常食の試食を呼びかける奉仕団員。◆ 左は、福祉のふれあいまつりで好評だったフランクフルトの販売。